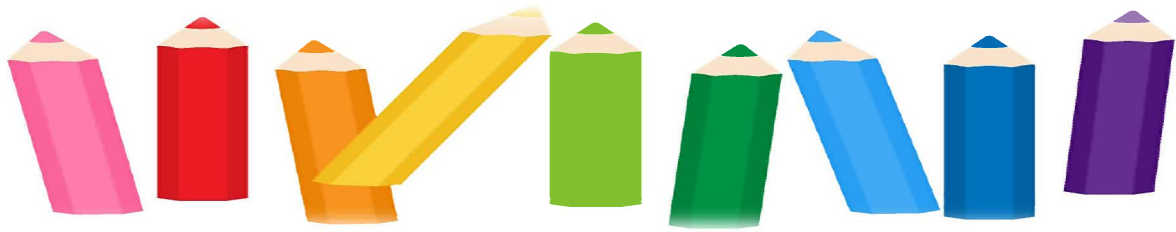


新冠町 PTA 連合会研究大会 兼 家庭教育学級



朗読劇

「いのちのいろえんぴつ」

○日時 11月27日(月)

18:00~ 受付

18:30~ 開会式

18:35~ 朗読劇

19:55~ 閉会式

○会場 新冠町レ・コード館

町民ホール

主催：新冠町 PTA 連合会

後援：新冠町教育委員会

【問い合わせ】新冠町立朝日小学校

0146-47-2909

○料金 無料

—出演— 朗読塾・チームいちばん星

2005年(平成17年)、北海道内の浄土真宗の僧侶と坊守の有志で結成した「朗読パフォーマンスチーム」。小さな輝きであっても、「生きることの意味」を伝えるひとつの光になりたいという願いから命名。

2011年(平成23年)の京都西本願寺を始め、東京、大阪、熊本、大分、広島、山口、仙台、新潟、和歌山など、北海道内外でも小・中・高生の「いのちの授業」、保育士の研修会、人権擁護の大会などで、「いのち」をテーマにした作品を通じて“生きる力”を届けたいという願いで活動中。

家族や友達、町民の皆さんをお誘いあわせの上、ご参加ください。

～朗読劇「いのちのいろえんぴつ」～

この朗読劇は、北海道厚岸町という町で2003年に脳腫瘍によって、わずか11歳で亡くなった豊島加純さんが、先生からもらった12色のいろえんぴつで描いた絵と詩を綴ったものを、朗読用に構成したものです。

それは、絵本というよりは、絵と詩を綴られた記録史という方が正しいかもしれません。

7歳の時に、先生に褒められた詩。そして発病後、次第にマヒが現れてからの詩。右手が使えなくて、左手で書いた詩。加純さんの病気が進行し、マヒが強くなっているのが、文字の様子で痛々しいほど伝わってきます。

それでも、憂鬱な気分にならないのは加純さんの素直で純粋に生きようと頑張っている詩のおかげ。彼女の詩は、病気のつらさを綴るのではなく、明日に希望を持ち、生きることを諦めない少女の素朴な感情があらわれています。純粋で、優しく、そして強く生きることを願いながら、一人の少女が生きた証。



愛する人とも、必ず別れていくいのち。それは、私自身の問題です。

だからこそ、出逢える「今」をどう生きるか……。

「精一杯生きること」を教えてくれる加純さんの詩を通じて、朗読劇という形で皆様に「生きることの意味」を問いかけます。

ごゆっくりとご覧ください。

(朗読塾・チームいちばん星 事務局長 豊田靖史)